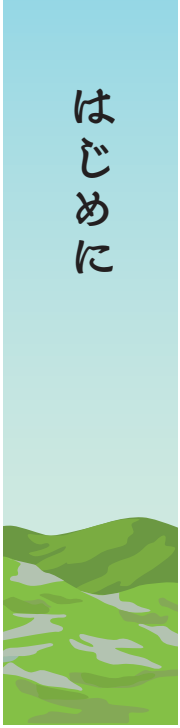
はじめに



山に行くと、さまざまな地形に出会う（**写真０−１**）。誰もが知る北アルプス**槍ヶ岳**（３１８０ｍ）は尖ったピーク。槍の穂先から伸びる北鎌尾根や東鎌尾根は鋭いナイフ・リッジ。南アルプス**赤石岳**（３１２１ｍ）の百間平（ひゃっけんだいら）は名のごとく幅の広い尾根。そして、**北穂高岳**（３１０６ｍ）や**前穂高岳**（３０９０ｍ）に囲まれたキャンプの聖地・**涸沢**（からさわ）は、どんぶりを半分に割ったような窪地。

あなたの好きな山では、どのような地形が見られるだろうか。その山の地形は、いつ、どのようにして作られてきたのだろうか。

地形を扱う科学を「**地形学**」といい、歴史のある**自然地理学**の専門分野の一つである。今、日本中で登山ブームが続き、山の地形に興味をもつ人も増えているように思われる。しかし山の地形を地形学の視点で、やさしく解説した書物はこれまで多くはなかった。そこで本書は、山の地形に関心があるが、それをどこから・どのような視点から観察したらよいのか迷っている読者や登山者をターゲットにし、理科や社会などの科目について中学・高校程度の基礎知識をもつ読者を想定してまとめた。また、山行を重ねるうちに山の地形に興味がわいてきたから、ぜひ学んでみたいという登山者も念頭においてみた。

私が日頃講義をしている「自然地理学」や「地形学」では、地形を作る働き（作用）に着目し、その働きが大きく２つ、すなわち地球内部と地球外部のエネルギーに由来することを最初に解説している。そのうえで、各作用ごとに地形のでき方の特徴と、それによってできあがった地形の例を紹介している。本書も、その流れを汲んで項目を並べてみた。山以外の場所を含めたり、やむを得ず山の話題を割愛したりした項目もあるが、できるかぎり山の地形を取り上げるようにした。

本書で登場する山の名は、**地理院地図**（**国土地理院**が提供するインターネット地図）の表記を優先した。ただし、広く別称が使われているものはそれらも載せた。たとえば、中央アルプスの盟主である「**木曽駒ヶ岳**」（２９５６ｍ）は、地理院地図での表記は単に「駒ヶ岳」である。また、ポピュ

ラーな山名と同じ名の山頂や三角点がなく、いくつかの山頂や山群をまとめて名が付けられたものもある。その場合も、できるだけ独立峰と山群名の両方を記した。たとえば、北アルプスの「**立山**（たてやま）」は**雄山**（３００３ｍ）、**大汝山**（おおなんじ）（３０１５ｍ）、**富士ノ折立**（おりたて）（２９９９ｍ）の総称として使われることが多い。標高もできる限り示したが、山頂の三角点の値を優先しつつ、三角点以外の場所を載せた例もある。山形県**月山**（がっさん）では山頂近くの三角点（１９７９・５ｍ）より約40ｍ南にある独立標高点（１９８４ｍ）の方が高く、山頂とよぶにふさわしい。

あなたがこれまで登った山、そしてこれから登りたい山の地形はどのようにして誕生したのだろうか。山の地形を科学的に観察するツアーを始めたいと思う。



①


②


③


④

写真 0-1
さまざまな山の地形
①槍ヶ岳
②北鎌尾根
③百間平
④涸沢カール